

Also available daily on the internet!!

http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Family Worship

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

デーヴォ ガイド



2021.8.16-22

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

L T G Guide





6:25 その夜、主はギデオンに仰せられた。「あなたの父の雄牛、七歳の第二の雄牛を取り、あなたの父が持っているバアルの祭壇を取りこわし、そのそばのアシェラ像を切り倒せ。

6:26 そのとりでの頂上に、あなたの神、主のために石を積んで祭壇を築け。あの第二の雄牛を取り、切り倒したアシェラ像の木で全焼のいけにえをささげよ。」

6:27 そこで、ギデオンは、自分のしもべの中から十人を引き連れて、主が言われたとおりにした。彼は父の家の者や、町の人々を恐れたので、昼間それをせず、夜それを行った。

6:28 町の人々が翌朝早く起きて見ると、バアルの祭壇は取りこわされ、そのそばにあったアシェラ像は切り倒され、新しく築かれた祭壇の上には、第二の雄牛がささげられていた。

6:29 そこで、彼らは互いに言った。「だれがこういうことをしたのだろう。」それから、彼らは調べて、尋ね回り、「ヨアシュの子ギデオンがこれをしたのだ」と言った。

6:30 ついで、町の人々はヨアシュに言った。「あなたの息子を引っ張り出して殺しなさい。あれはバアルの祭壇を取りこわし、そばにあったアシェラ像も切り倒したのだ。」

6:31 すると、ヨアシュは自分に向かってたっているすべての者に言った。「あなたがたは、バアルのために争っているのか。それとも、彼を救おうとするのか。バアルのために争う者は、朝までに殺されてしまう。もしバアルが神であるなら、自分の祭壇が取りこわされたのだから、自分で争えばよいのだ。」

6:32 こうして、その日、ギデオンはエルバアルと呼ばれた。自分の祭壇が取りこわされたのだから「バアルは自分で争えばよい」という意味である。

ギデオンは必ずしも勇者の性質をそなえているわけではありませんでした。偶像を切り倒すのに、人を恐れて夜にそれを行うような、気の弱い面があったのです。できれば自分がやったとは知られたくなかったでしょう。しかしそれが知れ渡ってしまいました。

主はご自身の力が明らかになるために、あえて弱い人間を用いることが多いようです。自分は弱いから主のためには何もできないのだという言い訳は通用しません。

主が第一に求められるのは、弱い者が強くなるということではなく、その人自らのきよさです。ギデオンの家には偶像があったので、主はそれを処分するように命じられたのです。私たちは主に願いますし、そのためには自分を用いてくださいと願うこともあるでしょう。そのときは何よりも、罪から離れてきよくされることが必要です。罪ある者を用いるなら、それは主の聖であられることに傷がつくことになります。

結局ギデオンは隠れていることができず、表に立ってしまいましたし、それによって31節からのような威勢のいい言葉までも発しました。私たちももしかしたら、成り行きで引っ込みがなくなつて、大胆な信仰の行いへと導かれることもあるかもしれません。主の栄光につながるのなら、それは良いことであり、主が最後まで支えてくださいます。ギデオンのように前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:33 ミデヤン人や、アマレク人や、東の人々がみな連合して、ヨルダン川を渡り、イズレエルの谷に陣を敷いた。

6:34 主の霊がギデオンをおおったので、彼が角笛を吹き鳴らすと、アビエゼル人が集まって来て、彼に従った。

6:35 ギデオンはマナセの全域に使者を遣わした

彼はまた、アシェル、ゼブルン、そしてナフタリに使者を遣わしたので、彼らは合流して上って来た。

6:36 ギデオンは神に申し上げた。「もしあなたが仰せられたように、私の手でイスラエルを救おうとされるなら、

6:37 今、私は打ち場に刈り取った一頭分の羊の毛を置きます。もしその羊の毛の上にだけ露が降りていて、土全体がかわいていたら、あなたがおことばのとおり私の手でイスラエルを救われることが、私にはわかりません。」

6:38 すると、そのようになった。ギデオンが翌日、朝早く、その羊の毛を押しつけて、その羊の毛から露を絞ると、鉢いっぱいになるほど水が出た。

6:39 ギデオンは神に言った。「私に向かって御怒りを燃やさないでください。私にもう一回言わせてください。どうぞ、この羊の毛でもう一回だけ試みさせてください。今度はこの羊の毛だけがかわいていて、土全体には露が降りるようにしてください。」

6:40 それで、神はその夜、そのようにされた。すなわち、その羊の毛の上だけがかわいていて、土全体には露が降りていた。

敵は結集して戦いの準備が整いましたが、ギデオンは大胆に人々を集めました。もう後戻りすることはできません。酒ぶねの中に身を隠していたような者が、主に召しだされて偶像を撤廃してきよめられ、後戻りできない状態で心を決めたのです。どんなに信仰の勇者でも始めから「自分にはできる。」と思っていた人はいません。主のためなら、また主の御心が前進しているのなら、もうそれで行くという決心をしましょう。

またギデオンは慎重な人でもありました。前進しているからこそ、主の御心を確かめたくなるものです。不安や迷いがあるなら、正直に自分の内面を見つめて、主からの確信をもらいましょう。

ミニストリーを担ってわかることは、それぞれの段階において、新たな不安が起きるということです。ギデオンのように、人でへなく主に聞きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





7:1 それで、エルバアル、すなわちギデオ
ンと、彼にいっしょにいた民はみな、朝早く
ハロデの泉のそばに陣を敷いた。ミデヤン人
の陣営は、彼の北に当たり、モレの山沿いの
谷にあった。

7:2 そのとき、主はギデオンに仰せられた。
「あなたといっしょにいる民は多すぎるから、
わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。
イスラエルが、『自分の手で自分を救った』
と言って、わたしに向かって誇るといけない
から。」

7:3 今、民に聞こえるように告げ、『恐れ、
おののく者はみな帰りなさい。ギルアデ山か
ら離れなさい』と言え。」すると、民のうち
から二万二千人が帰って行き、一万人が残っ
た。

7:4 すると、主はギデオンに仰せられた。
「民はまだ多すぎる。彼らを連れて水のとこ
ろに下って行け。わたしはそこで、あなた
のために彼らをためそう。わたしがあなたに、
『この者はあなたといっしょに行かなければ
ならない』と言うなら、その者は、あなたと
いっしょに行かなければならない。またわた
しがあなたに、『この者はあなたといっしょ
に行つてはならない。』と言う者はだれも、
行つてはならない。」

7:5 そこでギデオンは民を連れて、水のとこ
ろに下って行った。すると、主はギデオンに
仰せられた。「犬がなめるように、舌で水を
なめる者は残らず別にしておき、また、ひざ
をつけて飲む者も残らずおせよ。」

7:6 そのとき、口を手に当てる水をなめた者
の数は三百人であった。残りの民はみな、ひ

ざをつけて飲んだ。

7:7 そこで主はギデオンに仰せられた。「手
で水をなめた三百人で、わたしはあなたが
たを救い、ミデヤン人をあなたの手へ渡す。
残りの民はみな、それぞれ自分の家に帰ら
せよ。」

7:8 そこで彼らは民の糧食と角笛を手に取っ
た。こうして、ギデオンはイスラエル人を
みな、それぞれ自分の天幕に送り返し、三
百人の者だけを引き止めた。ミデヤン人の
陣営は、彼から見て下の谷にあった。

主が人数の多さによって勝利される方ではない
ということがわかります。三万二千人いた兵士が
たったの三百人になりましたが、主の戦いのため
にはその方が良かったのです。とはいえただ減ら
したではありません。主の戦いにふさわしくな
い者は退けられ、ふさわしい者が残ったのです。

まず第一に恐れている者は退けられました。恐
れの原因は色々あったでしょう。敵という問題の
大きさを見て、主の偉大さを忘れてしまう。味方
の弱さ足りなさというマイナス面ばかりを見てし
まう。さらにはそのように恐れている味方を見て
は、「この群れは一致がない」「力がない」と批
判する。またはその批判者を見て、「これでは勝
てない」と思ってしまうなどなど…。恐れという
ものは伝染します。主はそのような者はいない方
が良いと判断なさるのです。

また第二には危機感のない者が退けられました。
ひざをつけて犬のように水を飲むなら、周囲の様
子が分からなくなりますし、突然敵が襲って来た
ときに、とっさに身をかかわることができないので
す。しかし手で水をすくって飲むなら、ひざをつ
いて顔を上げたままですから、様子も見えますし
襲撃に対処できます。危機感のないいい加減な雰
囲気もまた伝染します。主は三百人で戦うこと
をよしとされたのです。

数の多さを頼みとするよりも、主を信頼し、
危機感をもって主に従う備えのできた人を、
働きの力と認識しましょう。またそのような
働き人となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





7:9 その夜、主はギデオンに仰せられた。「立って、あの陣営に攻め下れ。それをあなたの手に渡したから。」

7:10 しかし、もし下って行くことを恐れるなら、あなたに仕える若い者ブラといっしょに陣営に下って行き、

7:11 彼らが何と言っているかを聞け。そのあとで、あなたは、勇気を出して、陣営に攻め下らなければならない。」そこで、ギデオンと若い者ブラとは、陣営の中の編隊の端に下って行った。

7:12 そこには、ミデヤン人や、アマレク人や、東の人々がみな、いなごのように大ぜい、谷に伏していた。そのらくだは、海辺の砂のように多くて数えきれなかった。

7:13 ギデオンがそこに行ってみると、ひとりの者が仲間に夢の話をしていた。ひとりが言うには、「私は今、夢を見た。見ると、大麦のパンのかたまりが一つ、ミデヤン人の陣営にころがって来て、天幕の中にまで入り、それを打ったので、それは倒れた。ひっくり返って、天幕は倒れてしまった。」

7:14 すると、その仲間は答えて言った。「それはイスラエル人ヨアシュの子ギデオンの剣にほかならない。神が彼の手にミデヤンと、陣営全部を渡されたのだ。」

7:15 ギデオンはこの夢の話とその解釈を聞いたとき、主を礼拝した。そして、イスラエルの陣営に戻って言った。「立て。主はミデヤン人の陣営をあなたがたの手に下された。」

7:16 そして、彼は三百人を三隊に分け、全員の手に角笛をからつぼを持たせ、そのつぼの中にたいまつを入れさせた。

7:17 それから、彼らに言った。「私を見て、あなたがたも同じようにしなければならない。見よ。私が陣営の端に着いたら、私がするように、あなたがたもそうしなければならない。」

7:18 私と、私といっしょにいる者がみな、角笛を吹いたなら、あなたがたもまた、全陣営の回りで角笛を吹き鳴らし、『主のためだ。ギデオンのためだ』と言わなければならない。」

7:19 ギデオンと、彼といっしょにいた百人の者が、真夜中の夜番の始まる時、陣営の端に着いた。ちょうどその時、番兵の交代をしたばかりであった。それで、彼らは角笛を吹き鳴らし、その手に持っていたつぼを打ちこわした。

7:20 三隊の者が角笛を吹き鳴らして、つぼを打ち砕き、それから左手にたいまつを強く握り、右手に吹き鳴らす角笛を強く握って、「主の剣、ギデオンの剣だ」と叫び、

7:21 それぞれ陣営の周囲の持ち場に着いたので、陣営の者はみな走り出し、大声をあげて逃げた。

7:22 三百人が角笛を吹き鳴らしている間に、主は、陣営の全面にわたって、同士打ちが起こるようにされた。それで陣営はツェレラのほうのベテ・ハシタや、タバテの近くのアベル・メホラの端まで逃げた。

7:23 イスラエル人はナフタリと、アシェルと、全マナセから呼び集められ、彼らはミデヤン人を追撃した。

7:24 ついで、ギデオンはエフライムの山地全域に使者を送って言った。「降りて来て、ミデヤン人を攻めなさい。ベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取りなさい。」

そこでエフライム人はみな呼び集められ、彼らはベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取った。

7:25 また彼らはミデヤン人のふたりの首長オレブとゼエブを捕まえ、オレブをオレブの岩で、ゼエブをゼエブの酒ぶねで殺し、こうしてミデヤン人を追撃した。彼らはヨルダン川の向こう側にいたギデオンのところに、オレブとゼエブの首を持って行った。

主の戦いと前進のためには確信が重要ですが、ギデオンにはこれがなかったので、神様は斥候が敵陣で聞いたことにより、確信を与えました。それが指導力となり、全軍を鼓舞しました。そして300人という少数でも、彼らは戦えたのです。一方敵陣は大勢でしたが、ひとりの夢によって動揺しました。

少数でも確信と一致があれば勝利できるのです。「足りない」と思えるような現状でも、主の選ばれた条件で雄雄しく戦いましょう。

イスラエル軍が持っていたのはつぼとたいまつでした。彼らは勇士でしたが、それは剣の強者であることを意味しません。彼らに必要なのは、恐れない者であったこと(2-3節)また危機感を持って備えていること(4-7節)でした。献身、さらには300人でも主の戦いなら勝利という信仰、そしてつぼとたいまつで大軍に向かってゆくという勇気でした。

今を生きる私たちは、誰のための戦いであるか、そして主の栄光を表すよう信仰の勇士として進んでいるかを問いかけてみる必要があります。

- ①神のみこころは？
- ②どんな思いになりましたか？
- ③生き方にどう適用しますか？
- ④この世にあって何を実践しますか？



8:1 そのとき、エフライム人はギデオンに言った。「あなたは、私たちに何ということをしたのですか。ミデヤン人と戦いに行ったとき、私たちに呼びかけなかったとは。」こうして彼らはギデオンを激しく責めた。

8:2 ギデオンは彼らに言った。「今、あなたがたのしたことと比べたら、私がいったい何をしたというのですか。アビエゼルのぶどうの収穫よりも、エフライムの取り残した実のほうが、よかったのではありませんか。」

8:3 神はあなたがたの手にミデヤン人の首長オレブとゼエブを渡されました。あなたがたに比べたら、私に何ができたのでしょうか。」ギデオンがこのことを話すと、そのとき彼らの怒りは和らいだ。

8:4 それからギデオンは、彼に従う三百人の人々とヨルダン川を渡った。彼らは疲れていたが、追撃を続けた。

8:5 彼はスコテの人々に言った。「どうか、私について来ている民にパンを下さい。彼らは疲れているが、私はミデヤン人の王ゼバフとツアルムナを追っているのです。」

8:6 すると、スコテのつかさたちは言った。「ゼバフとツアルムナの手首を、今、あなたは手にしているのでしょうか。私たちがあなたの軍団にパンを与えなければならないなどとは。」

8:7 そこでギデオンは言った。「そういうことなら、主が私の手にゼバフとツアルムナを渡されるとき、私は荒野のいばらやとげで、あなたがたを踏みつけてやる。」

8:8 ギデオンはそこからベヌエルに上って行き、同じように彼らに言った。すると、ベヌ

エルの人々もスコテの人々が答えたように彼に答えた。

8:9 それでギデオンはまたベヌエルの人々に言った。「私が無事に帰って来たら、このやぐらをたたきこわしてやる。」

エフライム人はイスラエルの部族ですから、ギデオンの味方ではありますが、彼らはクレームをつけに来ました。ギデオンたちが三百人の勇士で戦い、勝敗が決した後に参加したのがエフライムでした。彼らは戦利品など勝者の利益が欲しかったのです。

そのような有様は現代でも考えられることです。自分は責任やリスクを負わないように、この成り行きを見守り、先が見えたところで参加して自論や権利を主張するといった行動です。

それに対してギデオンは知恵を持って対処しています。「あなたがたの方がすばらしいことをしてくれた。よりよい結果を得た。」と言って、相手の心を「和ら」げた(3)のです。

これが主の戦いであること、主の力で与えられた勝利であること、これからもともに歩むべき同胞であることなどを思い、ギデオンは聖霊様から知恵と忍耐をいただいたのでしよう。

一方スコテとベヌエルの人々に対しては、ギデオンは報復を誓っています。彼らはイスラエルの部族であるのにも関わらず、まだギデオンたちの勝利を疑っており、リスクを犯さないで自己中心だったからです。ギデオンは感情で言ったのではなく、まず優先課題であるミデヤン人問題を解決し、その後で対処しようとしています。

私たちには感情よりも優先させるべきことがありますし、また感情よりも大切な主の勝利というものがあるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？





8:10 ゼバフとツアルムナはカルコルにいたが、約一万五千からなるその陣営の者も彼らといっしょにいた。これは東の人々の陣営全体のうち生き残った者のすべてであった。剣を使う者十二万人が、すでに倒されていたからである。

8:11 そこでギデオンは、ノバフとヨグボハの東の天幕に住む人々の道に沿って上って行き、陣営を打った。陣営は油断していた。

8:12 ゼバフとツアルムナは逃げたが、ギデオンは彼らを追って、ミデヤンのふたりの王ゼバフとツアルムナを捕らえ、その全陣営をろうばいさせた。

8:13 それから、ヨアシュの子ギデオンは、ヘレスの坂道を通して戦いから帰って来た。

8:14 そのとき、彼はスコテの人々の中からひとり若者を捕らえ、尋問した。すると、彼はギデオンのために、スコテのつかさたちと七十七人の長老たちの名を書いた。

8:15 そこで、ギデオンはスコテの人々のところに行って、言った。「あなたがたが、『ゼバフとツアルムナの手首を、今、あなたは手にしているのか。私たちがあなたに従う疲れた人たちにパンを与えなければならぬなどとは』と言って、私をそしたそのゼバフとツアルムナが、ここにいる。」

8:16 そしてギデオンは、その町の長老たちを捕らえ、また荒野のいばらや、とげを取って、それでスコテの人々に思い知らせた。

8:17 また彼はペヌエルのやぐらをたたきこわして、町の人々を殺した。

8:18 それから、ギデオンはゼバフとツアルムナに言った。「おまえたちがタボルで殺し

た人たちは、どこにいるのか。」すると彼らは答えた。「あの人たちは、あなたのような人でした。どの人も王の子たちに似ていました。」

8:19 ギデオンは言った。「彼らは私の兄弟、私の母の息子たちだ。主は生きておられる。おまえたちが彼らを生かしておいてくれたなら、私はおまえたちを殺しはしないのだが。」

8:20 そしてギデオンは自分の長男エテルに「立って、彼らを殺しなさい」と言ったが、その若者は自分の剣を抜かなかった。彼はまだ若かったので、恐ろしかったからである。

8:21 そこで、ゼバフとツアルムナは言った。「立って、あなたが私たちに撃ちかかりなさい。人の勇氣はそれぞれ違うのですから。」すると、ギデオンは立って、ゼバフとツアルムナを殺し、彼らのらくだの首に掛けてあった三日月形の飾りを取った。

敵の王たちを捕らえたギデオンは、以前に宣言したように、スコテとペヌエルの人々に報復します。その後、敵の王であるゼバフとツアルムナを殺します。

敵は大打撃を受けましたが、まだ一万五千人が残っており、三百人のギデオン軍に対しては油断していました。力が弱いことが勝利の要因だったのです。

ギデオンがスコテやペヌエルの人々に報復したのは、同胞を滅ぼすのではなく叱責を与えるものでした。敵は敵として、主の愛は主の愛として混同しないようにしなければなりません。

ギデオンはゼバフとツアルムナが同胞を殺したことを知り、その報復として彼らを殺します。これは正しい対処と見ることもできますし、また私

情による報復と見ることもできます。いずれにしても、主に敵対するものを残しておいてはなりません。私たちにとっても同じで、それが人であればその人を悔い改めに導く必要がありますが、あくまでも愛によって働く聖霊に力があります。また人以外のものであるならそれを処分する必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8:22 そのとき、イスラエル人はギデオンに言った。「あなたも、あなたのご子息も、あなたの孫も、私たちを治めてください。あなたが私たちをミデヤン人の手から救ったのですから。」

8:23 しかしギデオンは彼らに言った。「私はあなたがたを治めません。また、私の息子もあなたがたを治めません。主があなたがたを治められます。」

8:24 ついで、ギデオンは彼らに言った。「あなたがたに一つ、お願いしたい。ひとりひとり、自分の分捕り物の耳輪を私に下さい。」一殺された者たちはイシュマエル人であったので、金の耳輪をつけていたからである—

8:25 すると、彼らは「差し上げますとも」と答えて、一枚の上着を広げ、ひとりひとりその分捕り物の耳輪をその中に投げ込んだ。

8:26 ギデオンが願った金の耳輪の目方は金で一七七百シェケルであった。このほかに、三日月形の飾りや、垂れ飾りや、ミデヤンの王たちの着ていた赤紫の衣、またほかに、彼らのらくだの首の回りに掛けていた首飾りなどもあった。

8:27 ギデオンはそれで、一つのエポデを作り、彼の町のオフラにそれを置いた。すると、イスラエルはみな、それを慕って、そこで淫行を行った。それはギデオンとその一族にとって、落とし穴となった。

8:28 こうしてミデヤン人はイスラエル人によって屈服させられ、二度とその頭を上げなかった。この国はギデオンの時代、四十年の間、穏やかであった。

8:29 ヨアシュの子エルバルは帰って自分の

家に住んだ。

8:30 ギデオンには彼から生まれた息子が七十人いた。彼には大ぜいの妻がいたからである。

8:31 シェケムにいたそばめもまた、彼にひとりの男の子を産んだ。そこで彼はアビメレクという名をつけた。

8:32 やがて、ヨアシュの子ギデオンは長寿を全うして死に、アビエゼル人のオフラにある父ヨアシュの墓に葬られた。

8:33 ギデオンが死ぬとすぐ、イスラエル人は再びバルを慕って淫行を行い、バル・ペリテを自分たちの神とした。

8:34 イスラエル人は、周囲のすべての敵から自分たちを救い出した彼らの神、主を心に留めなかった。

8:35 彼らは、エルバルすなわちギデオンがイスラエルに尽くした善意のすべてにふさわしい真実を、彼の家族に尽くさなかった。

ギデオンは統治者になるようにと要請されましたが、これを断りました。その代わりにエポデ（祭司の式服）を作りましたが、これが偶像になってしまいました。ギデオンの死後、イスラエルはまた神の御心から離れ、淫行を行うようになり、ギデオンの家族に不誠実になってしまいました。

ギデオンの「主があなたがたを治められます。」ということばは真理ではありますが、しかし現実的ではありませんでした。すなわちイスラエルは主に治められることを好まなかったのです。ギデオンの謙遜は素晴らしいものですが、一方霊的な状態を看破して自分の役割を果たすことも必要な場合があることをも忘れてはならないでしょう。

ギデオンが作ったエポデは神様によって命じら

れた善きものでありましたが、それがミデヤン人への勝利を記念するものであったなら、なおすばらしいものであるはずですが、しかしこれが偶像となり民の墮落のきっかけとなったのです。

どんなに良い起源があったとしても、それが神ご自身から離れてしまうなら、簡単に偶像となってしまおうという顕著な例です。それがイスラエルの霊的墮落を生み、ギデオンによってもたらされた信仰を忘れさせ、さらにはその家族への尊厳もなくなってしまったのでしょう。

神を第一にし中心にしないことが、すべての問題の原因になってゆくのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

